

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	13	学校名	岐阜各務野高等学校
------	----	-----	-----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	社会のニーズに対応した高い専門性を培う高校として 地域や企業等と連携・協働し、主体的、創造的に考える探究的な学びを通して 地域の産業発展や活性化を担う人材の育成を目指す学校
------------------------	--

学校教育目標 (教育方針)	<p>強くたくましい心身や豊かな人間性と社会性を育むとともに、社会の要請に対応した高い専門性を有する人材の育成を目指し、一人一人が自己実現を果たすことのできる基礎的な能力と態度の育成に努める。</p> <p>1 社会の変化に対応し、地域産業の発展を担う人材の育成に努める。 (1) ビジネスや経済の諸活動を主体的、合理的に行い、経済社会の発展を図る総合的な能力と実践的な態度の育成。 (2) 情報社会で活躍できる創造的な能力と実践的な態度の育成。 (3) 人間としての尊厳の認識を深め、社会福祉の増進に寄与できる創造的な能力と実践的な態度の育成。</p> <p>2 豊かな人間性と高い倫理観を育み、積極的に社会に貢献できる人格の形成に努める。 3 学習や部活動を通して、生涯にわたり健康で明るく豊かな生活が送れるよう心身の健全な発達に努める。</p>
------------------	---

3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナーを身に付け、商業の各分野について高度な知識と技術を身に付けるとともに、想像力豊かでビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる生徒 (ビジネス科) ・デジタルクリエイターとして、Society5.0で実現する新たな社会において情報を活用し、情報に対する新たな価値を創造することができる生徒 (情報科) ・福祉に関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を身に付け、より良い福祉社会をめざすため主体的かつ協働的に取り組むことができる生徒 (福祉科)
	生徒をどう育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・「礼節と礼儀を大切にされた商業人教育」と「商業の専門性を深める探究的な学び」を両輪として、経済社会で活躍するために商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学びの推進 (ビジネス科) ・情報産業に関する事象について、主体的に課題を発見し、ICT機器を活用しながら科学的で論理的な方法で創造的に解決していくための探究的な学びの推進 (情報科) ・実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて学ぶ意欲を高め、福祉に関する課題を発見し、職業人として求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する学びの推進 (福祉科)
	どんな生徒を待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・商業の諸活動に興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組む姿勢をもつとともに、経済社会に積極的に参画しリードできる人材になりたいと考えている生徒 (ビジネス科) ・情報科の学習 (プログラミング・映像制作・イラスト制作・アプリ開発・Webデザイン・ネット配信等) に深い興味・関心があり、その知識や技術の習得に努力を惜しまない生徒 (情報科) ・福祉に関して興味と関心を持ち、将来の職業として福祉に関わる職業を希望している生徒 (福祉科) ・部活動や生徒会活動、ボランティア活動等に主体的に活動し、自己の成長や仲間とのつながりを大切にしようとする生徒

学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・VUCAの時代を迎え、答えのない問いに対して自ら考える力 (振り返る力) や粘り強さが希薄である。 ・目的意識や見通しがもてず、自ら学ぶ意欲が低い。 ・学習面への意欲の低さにより、自己肯定感や自己効力感がもてない生徒が多い。 ・様々な環境や事情から、自分と向き合おうとする姿勢がもてない生徒がいる。
----------	---

教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学習指導	専門学科で学ぶ意義を理解させ、専門分野の学習を深めさせるとともに、地域や産業との関わりを通して、専門的な知識や技能の定着を図る。
	進路指導	一人一人が将来の目標や明確な目的意識をもち、主体的に日々の学校生活に取組み、自己の進路を選択・決定・実現できるの能力を高める。キャリア教育を推進し、Well-beingな社会の実現を目指し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ、社会人・職業人として自分らしく活躍することができる生徒を育成する。
	生徒指導	自ら判断、行動し、その結果に責任を持つ自己指導能力を育成するとともに、将来において望ましい人間関係を築き、社会的自己実現ができる資質や態度を育成する。
特別活動	生徒会活動、部活動、ホームルーム活動、学校行事での集団活動を通じて、心身の伸長を図るとともに、よりよい人間関係を築いていける実践的な能力を育成する。	

年度目標			年度末評価 (自己評価)					
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合 評価 A.B.C.D	
学習指導	産業界や大学等との連携を通し、専門性の深化を図り、地域課題等に対して多面的に考察・分析し、課題解決に向けた提案ができる能力と態度の育成をする。	施策Ⅰ-4		<p>【全体・教務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の公開授業週間 (5月・11月) の実施した。 ・今年度よりInstagramを開発し、生徒の活動状況をリアルタイムに発信した。 <p>【ビジネス科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドやコースの専門性を生かし、地域と連携した取り組みを行い、活動内容を発表することができた。 ・商業科目の基礎基本を定着させることで商業教育の土台を作り、より高度な専門知識を習得できる授業を展開することができた。 ・ICT機器等を活用した授業を展開した。放課後等に補習を行い、生徒の学びの理解度を高めることに努めることができた。 <p>【情報科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査から課題の検討、プレゼンテーション作成に至るまで、一連の思考プロセスを実践する問題解決型学習を実施した。 ・文部科学省指定のDXハイスクール事業を通して、学習環境の整備と大学や企業などの外部連携の充実を図った。 <p>【福祉科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設実習や講習会等により実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、様々な分野の興味・関心を高めた。 ・生徒の情報共有をこまめに行い、個別に指導が必要な生徒に対しては教員間で役割を分担し取り組んだ。 <p>【専門教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題探究型学習推進事業 (地域産業担い手型) にて、昨年度の連携事業をさらに発展させ、各学科の特性を生かした取組みができた。 <p>【かかみの未来プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の探究アンケート (回収率98.7%) で「KMP」への取組自己評価」全力でグループの中心となり取組んだ22.2%、グループの中心の一人として取組んだ27.6%、仲間と協力して取組んだ42.1%、あまり探究活動に参加しなかった4.5%、まったく参加しなかった (他の人が頑張った) 3.6% 	B	<p>【全体・教務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公開授業では、生徒主体の授業形態が多くみられた。 ○学校評価アンケートの項目「ICT機器を有効に活用した授業が行われている」については、昨年度よりも2.6ポイント上昇した。教職員のICT機器を活用した授業実践の成果である。 ▲教員自身の授業でICTを利用して、授業の効率化を図れている一方で、生徒がタブレットを利用する授業は多くはないのが現状である。 ▲今年からInstagramを開発して積極的に情報発信してきたつもりだったが、「本校の情報発信や広報活動はわかりやすい。」の項目で生徒保護者共に80%以上を超えなかったため、今後より研究していく必要がある。 <p>【ビジネス科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育成するために、地域や地元企業と連携した教育活動を実施することができた。地域等が抱える問題を考察し、解決するための手段を考える力をさらに育成していきたい。 ○複数の高等教育機関 (大学・専門学校) と連携して専門知識を習得させることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。 <p>【情報科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題研究における鶴沼宿との連携学習では、マップデザインを通じた社会課題解決の学習活動を実施し成果を得た。 ○進路指導においては、複数名、公立大学への合格者を輩出することができた。 ○各種コンテストでは、複数の作品が入賞することができた。(世界エイズデーポスターコンクール、全国高等学校総合体育大会 大会愛称・スローガン・シンボルマーク・総合ポスター図案) <p>【福祉科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲生徒の習熟度差が大きいため、今後も評価基準や課題の提示等を検討する必要がある。 <p>【専門教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲各専門職の視点を積極的に取り入れ、計画的に地域連携事業に取組む必要がある。 <p>【かかみの未来プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界レベルの未解決課題にテーマを立て、学科・学年を超えて探究的に取組み、すべての班がポスターの作成、発表ができた。 ▲学年を超えた探究的な活動に、3年生が主体的に取り組むことを期待した。約半数は中心となり取り組めたが、20名近くは意欲や態度に課題が残った。 	B	
	確かな学力を育成するため、個の学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を充実させる。	施策Ⅱ-9	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・教員による授業評価アンケート ・「ICTを活用した個別最適な学び」における自主的な課題取組状況 					
	基礎的・基本的な学力・技能の定着を図り、目的意識をもって自主的・主体的に学ぶ意欲や態度を育成する。	施策Ⅱ-8						

進路指導	インターンシップ・施設実習、外部講師による講話等を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ報告書や事前事後のアンケート調査 ・検定等の取得状況や、関連職種への就職・進学状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業理念を知り、社会での役割などを探究的に学ぶ機会として、インターンシップを2月2日～4日に実施した。多くの地元企業にご理解・ご協力を願え、ビジネス科115名、情報科14名の129名が59事業所で学びを深めた。 ・学びを活かした事務職での就職10名、公務員3人、総合型選抜での公立大学進学3人、介護福祉士の資格取得を前提とした就職など、専門教育を活かした進路実現が多数あった。 ・保護者も対象とした進路ガイダンスや企業見学、講話を積極的に企画・運営した。 ・KMPJと協働してWell-beingを重視する価値観の育成に取組んだ。 	B	○6月実施の3年就職希望者対象企業見学は、事後アンケートで役に立ったと全員の生徒が回答しており、地元企業の理解が深まったと考えられる。また、昨年度のインターンシップが就職につながった生徒も複数おり効果があると考えられる。
	専門教育の充実に向け、専門的知識や技術を生かした進路実現を目指す。	施策Ⅱ-14				○今年度は一般試験での国立大学を受験する生徒や、来年度9月入学の難関私立大学へ向けて努力を継続する生徒など、結果に関わらず目標を持ち挑戦する姿があった。
	大学説明会や企業訪問等を通して情報提供に努め、キャリアカウンセリングの充実を図る。	施策Ⅱ-13				▲保護者を対象とした外部講師による講演や企業見学は、参加者の評価は極めて高かったが、参加者が少なかった。
	Well-beingを重視し、経済的利益だけでなく、人と地球を大切にす価値観を育成する。	施策Ⅱ-10				▲目標を持ち努力した生徒がいる一方で、経済的理由等で急遽進路変更をする生徒が複数あった。現実認識の甘さが見られる。
生徒指導	きめ細かな指導と支援を充実させ、基本的な生活習慣の確立と生徒自身による規律意識の向上を図る。	施策Ⅰ-1	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度比較による遅刻者数統計の確認 ・各種会議での横断的情報共有 ・いじめ対策の徹底と教育相談との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・「一日の遅刻数全校3人まで」を目標にし、一日の学年と全校の遅刻数を可視化できるグラフを毎日掲示し更新した。 ・「遅刻0ウィーク」を毎月設定し、期間中は各クラスの遅刻数の数を掲示した。 ・毎日朝読書後に、身だしなみ・遅刻・学校生活・人生訓など全校放送をすることを実施した。 ・管理職や各教員間で、生徒情報の共有が迅速にかつ正確に行うことができた。 	A	○4月から12月の一日遅刻数平均の推移は、R5:5.3人 → R6:4.7人 → R7:4.4人となり年々遅刻数が減少するとともに、生徒指導事案も過去一番少なかった。
	組織的・多面的視点からの生徒理解が可能となるよう、教職員間で有機的な情報共有できる体制を整備する。	施策Ⅰ-3				○朝に全校放送を流す取組みにより、全校生徒に共通認識を持たせ、ることができた。
	他の生徒に対して価値ある存在として一人一人を認め合い、安心して学校生活を送ることができる学びの場を構築する。	施策Ⅰ-3				▲クラス・学年・学科など、それぞれの関わりの中で、日々の生徒指導事案や教育相談的なケアについて、どう解決するか、指導していくのかを、負担が一人所に集中することなく、たくさんの教員で指導する体制を確立する必要がある。
	生徒が発信するプラスの思いを全校で共有し、他者への思いやりの気持ちを大切にす雰囲気醸成する。	施策Ⅰ-2				
特別活動	自身の役割や責任を果たし、もてる能力を生かしながら、生徒会活動や各種委員会活動に積極的に取組むことを通して、学校づくりを支える意識を醸成する。	施策Ⅳ-24	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身による企画内容、生徒会執行委員会や各種委員会の年間反省、行事実施後のアンケート ・各部活動の活動状況及び実績や、ボランティア活動の内容と回数 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も学校行事の運営等を生徒主体で実施することとした。生徒会を中心に、各委員会や部活動に役割を分担し、学校行事を実施した。前年度の生徒・教職員アンケートから出た改善点を中心に学校行事をブラッシュアップすることができた。 ・伝達表彰や壮行会にて各部の活躍を紹介するなど、部活動の意識を高めるよう努めた。また、地域のイベントに積極的に参加をするなど、活躍の場を広げた。 	A	○学校行事の企画・運営を生徒主体で実施したことにより、生徒の学校行事に対する意識が変わった。事後アンケートから、次年度はさらに良いものにしたと意欲を感じるものも多々あった。次年度はさらにブラッシュアップし、生徒主体でより良い学校行事を創り上げていく。
	学校行事やホームルーム活動などを、生徒自身で主体的に企画・運営できる力を育成する。	施策Ⅳ-20				○伝達表彰や壮行会にて各部の活躍を紹介するなど、部活動への意識を高めるよう努めた。また、地域のイベントに積極的に参加をするなど、活躍の場を広げた。
	部活動の活性化に加え、ボランティア活動についても積極的に取組むことにより、社会に貢献する意識の向上を図る。	施策Ⅳ-25				▲次年度はその活動を報告できる体制を検討していきたい。

<p>来年度に向けての改善方策等</p> <p>【全体・教務】 <input type="checkbox"/>授業において生徒が主体性を持って活動できるような工夫を、教員同士で情報共有をし、各教科や学科、学年をとおして行っていく。</p> <p>【進路支援】 <input type="checkbox"/>第4期教育振興基本計画にコンセプトとして示された「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を目指して多様な個々を重視し、幸せや生きがいを実現するための「キャリア教育」を充実する。そのために、学科の特性や学びを活かした進路ガイダンスや、学年・学級の状況に応じたLHR等への関わり方など、学科・学年との連携強化を図る。</p> <p>【生徒支援】 <input type="checkbox"/>クラス・学年・学科での指導・支援を分業化し、全教職員で生徒指導・支援する体制をつくる。</p> <p>【特別活動】 <input type="checkbox"/>学校行事について、生徒会を中心に前年度の改善点を解決し、より良いものが創り上げられるよう行動していく。 <input type="checkbox"/>部活動について、時代に合わせた実施方法を模索し、柔軟な発想に基づき、生徒個々の満足度や自己肯定感を高めていく。</p> <p>【ビジネス科】 <input type="checkbox"/>3つのコースのそれぞれの特色を生かした授業展開（総合実践・課題研究）を行う。 <input type="checkbox"/>地域との連携や大学等との連携を継続して実施する。</p> <p>【情報科】 <input type="checkbox"/>地域の各種団体や機関と連携した事業を通して、探究的な学びを継続していく。 <input type="checkbox"/>引き続き進学実績を高められるよう、進路指導の充実を図る。</p> <p>【福祉科】 <input type="checkbox"/>情報共有など教員間での連携を引き続き強化し、多様化する生徒に組織としての対応を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が専門的な知識と指導力を身に付け、キャリア教育としての外部連携や日々の授業、資格取得を充実させる。 ・専門性を高めた生徒が地元へ戻り地域福祉の即戦力として活躍できるよう、特に課題研究等の授業で生徒の主体性を尊重できるような指導力をつけていく。 </p> <p>【専門教育】 <input type="checkbox"/>各学科の連携事業を取り入れ、地域課題に向けて多面的に解決できるよう取組む。各学科で事業を発展させるだけでなく、専門的な取組みを教員間で情報共有していく。</p> <p>【かかみの未来プロジェクト】 <input type="checkbox"/>探究活動が深まらなかった原因を踏まえ、具体的に次の4点を改善策とする。①手法を学ぶ機会を設ける、②大テーマを基に希望を取りグループ編成をする、③企業と連携して探究活動を進める、④年度途中でも意見や提案を積極的に取り入れて改善して進める、⑤実施時間を変更しSHRや掃除前に行う</p>	<p>実施日：令和8年2月5日</p> <p>学校関係者評価</p> <p>実施日：令和8年2月5日</p> <p>○課題研究の内容で、社会問題をテーマとして生徒自ら主体的に考え取組んでいる姿を見ることができた。このように取組んだ内容を社会に発信していくことで、未来につなげることができるため、ぜひ取組みを継続していくことを期待する。</p> <p>○自分の研究成果をプレゼンテーションし発表するという社会人に必要なスキルを高校生のうちから学ぶことができることはとても素晴らしい。この取組みを継続することで、即戦力となる人材の育成を推進してほしい。</p> <p>○異なる三学科があるため、自分の学科だけではなく他学科の取組についても知ることができることは大変よい。様々な分野について学ぶ機会を大切にしてほしい。</p> <p>○体験的な活動を重視した取組みや、企業などの外部機関と連携した授業を多く行っていることがわかった。教室で座って授業を聞くだけでなく、教室以外での活動があり、生徒にとっては大変有意義な授業である。</p> <p>○探究的活動「かかみの未来プロジェクト」の取組みについては非常に興味がある。課題を見つけて解決する力は将来、社会で働く生徒にとって必要とされるものであり、大変有効的な活動である。</p> <p>○自転車のヘルメットをしている生徒が少ない。全員統一のヘルメットではなく、カッコいいデザインのヘルメットにすれば着用者が増えると思うため、ぜひヘルメット着用の取組みをしてほしい。</p> <p>○介護福祉士などの資格取得に取組んでおり、資格をもっている人は様々な面で優遇されることも多いため、ぜひ資格取得をして就職してほしい。</p> <p>これらの助言や提言に基づき、地域の産業発展や活性化を担う人材の育成を目指して、地域や企業等と連携・協働しながら、主体的、創造的な探究的学びを推進していく。</p>
--	---